

ULT通信

あると

紙面がリニューアル！今号から、一人一枚お手元に届くようになります！もっとULTのことをみんなに知って欲しいから！新生ULT通信をどうぞよろしくお祈りします★

2014. 11. 17号 / vol. 51 発行 / ULT 図書館司書



ULT通信の名物連載「コラムdeリレー」。そのコラムで紹介した本を、ULT通信のバックナンバーとともに展示中。ULT通信をめくると…本がそこに！もちろん借りられますよ★



11/1~11/30 読書月間 特集展示

「コラム de リレー」クロニクル 好評展示中！



コラムの一部を紹介！

～文学のイメージが変わるような本～

…私の好きなエピソードは、「江戸川乱歩は、幼少の頃、大好きな女の子の下駄の鼻緒にこっそりと小さな紙を挟みこんで置いて、後からそれを回収しお守りにしていた」という話。ザ・変態じゃないですか！と思わず笑ってしまいました。（よく考えたら乱歩の作品は大体、変態が出てくる気がするけど…）（vol. 16）

～思わず真似したくなるセリフがある本～

…オスカルは、共に育った侍従のアンдреと恋に落ちます。アンдреは、二人の関係を侮辱されたと感じたとき、手近のカップの中身を相手の顔にぶちまけ「そのショコラが熱くなかったのをさいわいに思え!!」と怒鳴り、オスカルは革命に赴く際、「アンдреこの戦闘が終わったら結婚式だ」とひとこと…。身分の違いを超えて愛し合う二人に感動です！（vol. 37）

読書月間中（11月末日まで）は5点まで借りられるよ！また、ULT百選を月間中に始めるとULTオリジナルグッズのプレゼントもあります！まだまだ間に合うので、ULTへGo！

ULT NEWS

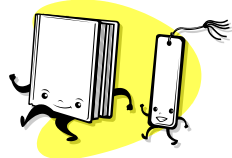
●みんなで撮ろう！「Studio ULT」★

ただいまULTが写真スタジオに大変身！オリジナルのパネルを持った来館者を司書がパチリと撮影します！撮影した写真が欲しい方には、プリントアウトしてプレゼントします。お友達を誘ってULTで記念写真しませんか？（撮影した写真は館内のデジタルフォトフレームに流します）



●図書委員作製「ワンフレーズしおり」の投票が始まるよ！

ULTで本を借りるとはさまっているしおりには、図書委員が選んだ、本のおすすめワンフレーズが載っているのを知っていますか？そのしおりを選ぶ投票が11/18から始まります！委員以外も投票できますので是非！



新着案内

10月の新着は63点。
一部抜粋で紹介します。



↓夢に見たSFの世界は、もうすぐ“キこま”で来ている…

タイトル	著者	請求番号
ロボットは東大に入れるか (よしみちパン!セ)	新井紀子	007.1-アラ
SFを実現する: 3Dプリンタの想像力	田中浩也 著	500-タナ
ドラえもん 1~20	藤子・F・不二雄	726.1-フジ-1

タイトル	著者	請求番号
音楽とキャリア	久保田慶一	760.4-クホ
「アイドル」の読み方 (青弓社ライブラリー)	香月孝史	767.8-カツ
活字アイドル論	小島和宏	767.8-コシ
恋と退屈	峯田和伸	767.8-ミネ

↓世界を知り日本を知ろう! *今回は北欧・東欧が多数

タイトル	著者	請求番号
日本人はなぜ無宗教なのか (ちくま新書)	阿満利磨 著	162.1-アマ
死ぬまでに行きたい!世界の絶景 日本編	詩歩	290.9-シホ
ロシア: 帝政からソ連崩壊、そしてウクライナ危機の向こう側 (現代思想)	栗原一樹	302.38-クリ
ギリシャ人の真実	柳田富美子	302.395-ヤナ
北欧のおいしい話 スウェーデンのカフェから、フィンランドの食卓まで	森百合子	383.8389-モリ
東欧のかわいい陶器	誠文堂新光社	751.3-セイ
北欧のテキスタイル	ギセラ・エロン	753.2-Er
ゼロから話せるハンガリー語 改訂版	岡本真理	893.7-オカ

↑音楽・アイドル好き必読。銀杏BOYZの

峯田のイッセイも入ったよ!



↓小説もたくさんありますよ〜。「物語」シリーズもとうとう完結です。

タイトル	著者	請求番号
続・終物語 (KODANSHA BOX)	西尾維新著	913.6-ニシ-18
末摘花 他 (ファミ通文庫. ヒカルが地球にいたころ… 5~8)	野村美月	913.6-ノム-5~8
悟浄出立	万城目学 著	913.6-マキ
シスターズ・ブラザーズ	バトリック・デヴィット 著	933.7-De
アイルランド・ストーリーズ	ウィリアム・トレヴァー 著	933.7-Tr
ドラゴンキーパー: 紫の幼龍 他	もきかずこ 訳	933.7-Wi-2, 3



コラムdeリレー

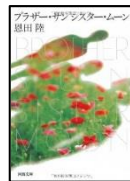
第51回は、笹木萌 (メガネ) が担当です。

お題は「主人公が人生の岐路に立たされる本」。恩田陸著『ブラザー・サン シスター・ムーン』を思い浮かべました。生か死か?!というような劇的な岐路ではないけれど、来た道を振り返り、ふと、あそこが岐路だったのかもなあと思ひ至るような、穏やかな印象を受ける物語です。

高校の同窓生、峰崎彩音・戸崎衛・箱崎一が、それぞれ主人公になる3部と、その予告編として書かれた、3人の出会いを描く1編から成る小説です。3部は、大人になった「今」の時点から、高校・大学・社会人時代を混ぜこぜに回想しながら進みます。1部は彩音の物語で、視点は彼女の一人称。2部は衛の物語で、視点は彼に寄り添う形の三人称。3部は一の物語で、彼ともうひとりの視点が交互にくる、一人称多視点形式。この性格の人物を描くにはこの視点、という使い分けや、過去から現在を直線で進めるのではない時間軸の取り方が、興味深く感じました。小説を書きたい人は参考にしてみたいでしょうか。

彩音は本、衛はジャズ、一は映画に、どっぷり浸った大学生活を送り、それがその後の人生にも大きく影響していきます。…と、エピソードをひとつひとつ書こうとすると、全部「人生の岐路」につながってネタバレになってしまう! なので、衛が3人の出会いを回想するシーンから、抜き書きして雰囲気だけ伝えて終わりたいと思います(笑)。

あの静かでまったりとした午後、目の前に三叉路があって、まるでそれが彼らの未来を指し示すかのように思えて、あそこで戸惑ったようにぼんやり立っていた情景だけが彼の中に残っていたのだ。



「人生の岐路」は、歩んできた道と選ばなかった未来との分岐点、現実と可能性の分かれ道という意味であるとともに、自分と誰かの別れ道という意味もあるのかなあと思います。次回のお題は、「別れの物語」。文学の得意分野ですね! 名作が多くて選べないかも!